公立大学法人　大分県立芸術文化短期大学

平成３０事業年度の業務実績に関する

項目別評価（大項目評価）及び全体評価

令和元年８月

大分県地方独立行政法人評価委員会

1　大項目評価

Ⅰ　大学の教育研究等の質の向上に関する目標

（1）評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり

（2）判断理由

①小項目評価の集計結果では、25 項目のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）であること。

②学科横断的なカリキュラムである「アートマネジメントプログラム」を開講し、90 名を超える全学科の学生が受講したこと。

③就職・進学に対応した進路指導プログラムと進路指導室の面接・相談等により、就職率 97.3%、進学率 98.3%といずれも昨年度を上回る高い水準を維持し、中期計画に掲げる目標値を達成したこと。

④継続的、専門的な公開講座と公開授業の実施や国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭への参画、県内各地域・各種団体との協働など、地域に開かれた大学として地域社会へ貢献する取組を進めていること。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

○教育の内容及び到達目標

・地域において芸術文化プロジェクトの企画運営が可能な人材の育成を目指す、全学横断型の「アートマネジメントプログラム」の実施体制を確立し、平成 30 年度後期から新たに開講した。

・美術科では、「日本画・美術科教育法」及び「映像デザイン」の専任教員を配置し、より高い専門教育、教職教育の質の向上を目指す体制が固まった。

・音楽科では、音楽基礎教育科目に能力別クラス編成を導入し、学生の能力に適した授業体系が構築でき、成果を上げることができたが、一方で今後の課題も確認できた。

・国際総合学科では、新規採用教員の専門科目に合わせて「キャリアデザイン」科目の内容や海外実習先を見直した。

・情報コミュニケーション学科では、志願者推移、学習効果、資格取得、進路等をもとに、現在の３コース編成の妥当性を確認した。

○教育の実施体制

・各学科で、カリキュラムマップを活用して、カリキュラムの点検・評価を行い、教務学生委員会で集約を行った。

・大分県立工科短期大学校の 20 周年記念事業ロゴマーク制作や八鹿酒造とタイアップした

商品ラベル制作など、県内各地域・各種団体と協働した。

〇地域社会への貢献

・生涯学習ニーズの高まりに対応し、継続的かつ専門的な公開講座であるオープンカレッジ（45 講座、受講者数 2,273 名）と公開授業（26 科目、受講者数 70 名）を実施した。

・国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭において、県や芸術文化スポーツ振興財団等と連携し、企画運営や個別のイベントへの参画、出演、協力等や、大学独自に協賛イベントの企画、実施を行うなど、県内の各種団体との協働に取り組んだ。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	Ⅰ 実施していない	Ⅱ 十分に実施できていない	Ⅲ 順調に実施している	Ⅳ 上回って実施している
教　育	１２			5	7
研　究	6			3	3
社会貢献	6			2	4
その他の目標	1			1	
合　計	２５			１１	１４

（注）大項目評価は、Ⅲ及びⅣの比率により決定する。

※　小項目評価の集計結果では、全ての項目がⅢ又はⅣの評価の場合、Ａ評価（計画どおり進んでいる）となる。

（３）評価にあたっての意見、指摘等

・前年度を上回る就職率（97.3%）及び進学率（98.3%）と高い水準になったことは評価できる。

・昨年度開催の国民文化祭・全国障害者芸術文化祭に積極的に取り組み、国民文化祭等の成功に貢献したことは評価できる。

・成績評価基準モデルの検討・作成を速めるよう努めるべきである。

・産学官の連携を一段と推進するよう努めるべきである。

・共通教育及び専門教育の充実及び地域との実践型の主体的学修活動が学修成果と就職・進学結果へと結びついている点は大いに評価できる。

・平成 30 年度後期から開講された全学横断型「アートマネジメントプログラム」が本学の芸術系と人文系を学科横断的に連携し、本学の強みをさらに増強する戦略的な教育研究拠点プラットフォームの構築であることは論を得ないが、わが国におけるアートマネジメント教育研究や文化政策教育研究面での研鑽成果や実践的還元は膨大かつユニークな成果を継続発展的に創出しつづけており、本学の取り組みはきわめて後発の感が強い。そのことへ向けた真摯な内省と謙虚な取り組み姿勢が問われる。その観点から見た場合、「アート

マネジメントプログラム」を設けたこと、アウトプットとして受講生が 90 名に登ったことを高く自己評価するのではなく、あくまで冷静かつ戦略的なアウトカムに基づいた評価の視点が必要である。すなわちカリキュラム上の「アートマネジメントプログラム」実施からいったい何が生まれていったのか、どのような学生が育ったのか、学生のどのような能力が涵養・開発されたのか、学生はどのような就職先へ進出し、そこでどのような社会的活躍をするようになったのか、それは結果として地元大分県をはじめとする社会に対し、どのような地域貢献・社会貢献を生んでいったのか、それらが全国的に少子高齢化や産業構造の変容や第一次産業・第二次産業・製造業衰退の中で一途な疲弊を余儀なくされてきた地域社会の自律的な再生や地方創生を遂行する際に活躍できる創造人材として振舞っていくのか、等の複眼的な観点から見ていく必要がある。こうしたアウトアム評価をもとにした時、初めて大学としての自己評価に至るべきではないか。この点から平成 30 年事業年度における自己評価には、とりわけ「アートマネジメントプログラム」の評価に関して冷静さが加味されるべきである。

・就職・進学の結果には、先生方による的確な進路指導や人的貢献が反映されており優れた成果となっている。さらに継続的に展開されている公開講座、公開授業といった社会貢献型プログラムの効果や、2018 年度に開催された国民文化祭、全国障害者芸術祭・文化祭への教員の先生方、学生による数々の参画や協働・支援活動は大きな成果を導くために功を奏してきた。そうした成果から、地域に開かれた大学、地域に愛される大学、として明確な使命を果たすと同時に、人材育成とコンテンツ創出の拠点として未来への期待や負託を県民から受けつつある、と高く評価される。

Ⅱ　業務運営の改善及び効率化に関する目標

（１）評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	**A** **計画どおり**	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり

（２）判断理由

①小項目評価の集計結果では、７項目のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）であること。

②教員の退職時期に合わせた計画的採用を実施しており、国際総合学科に経営学とフランス語の担当として、実務経験のある教員を２名採用したこと。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

〇運営体制

・学長、学内理事及び事務局長による幹部会議を定期的に開催し、情報の共有や迅速な意思決定を図ったほか、学長を委員長とした安全管理調整会議等を定期的に開催することで、安全・着実にキャンパス整備事業を実施した。

〇人事の適正化

・民間経験のある経営学担当教員と、フランス語及びフランス文学担当教員を２名採用するとともに、美術科で日本画及び美術科教育法を担当する教員並びに映像デザインを担当する教員の選考試験を実施した（平成 31 年４月採用･就任）。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象 項目数	Ⅰ 実施して いない	Ⅱ 十分に実施で きていない	Ⅲ 順調に実施し ている	Ⅳ 上回って実施 している
運営体制	3			2	1
人事の適正化	3			3	
事業の選択と集中	1				1
合　計	7			5	2

（注）大項目評価は、Ⅲ及びⅣの比率により決定する。

※　小項目評価の集計結果では、全ての項目がⅢ又はⅣの評価の場合、Ａ評価（計画どおり進んでいる）となる。

（３）評価にあたっての意見、指摘等

・教員の採用が順調に行き、今後の指導充実も期待できる。
・情報セキュリティ対策は万全かを検証するために、外部専門家による評価を導入することが望ましい。
・長年取り組まれてきたキャンパス整備事業が、芸術系大学としての矜持であり象徴とも言える「音楽ホール棟」、リベラルアーツや知的創造営為の象徴とも言える「附属図書館」を次々と完成させ、待望の高次な学修環境を創出しつつある。同時に工事現場を隣接させているため最大限の安全確保を施しつつ、今後のキャンパス整備完成へ向けて粛々と事業を進めていくことが求められている。同時に適切、適正な予算と人的資源の重点的配分、効果的活用を進めており業務運営と効率化への改善工夫が期待される。

Ⅲ　財務内容の改善に関する目標

（１）評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	**A** **計画どおり**	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり

（２）判断理由

①小項目評価の集計結果では、８項目のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）であること。

②キャンパス整備を進める中で省エネ効果の高い機器の導入や公開授業及びオープンカレッジにおける受講者増に向けた取組などを推進したこと。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

〇事務等の効率化及び経費の抑制

・新築した新図書館や音楽ホール棟、改修した美術棟への LED 照明など省電力機器の導入等により、電力消費の抑制に努めた。

〇自己収入及び外部資金の獲得

・公開授業及びオープンカレッジにおいて、費用対効果の観点からチラシの配布箇所、印刷部数を見直したほか、受講者増に向けて県庁広報広聴課と連携し、ＳＮＳや新聞広告を利用した広報活動に着手した。また、竹田キャンパスでオープンキャンパスを初めて開講し、新たなニーズの掘り起こしを試みた。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	Ⅰ 実施していない	Ⅱ 十分に実施できていない	Ⅲ 順調に実施している	Ⅳ 上回って実施している
事務効率化・経費抑制	2			2	
自己収入・外部研究資金の獲得	3			2	1
資産の適正管理・有効活用	3			3	
合　計	8			7	1

（注）大項目評価は、Ⅲ及びⅣの比率により決定する。

※　小項目評価の集計結果では、全ての項目がⅢ又はⅣの評価の場合、Ａ評価（計画どおり進んでいる）となる。

（３）評価にあたっての意見、指摘等

・公開講座等により、自己収入の拡大を図れたことは評価できる。 ・新たな「アートマネジメントプログラム」の開講、社会貢献・地域貢献への数多いプログラム運営、人事、キャンパス整備事業などの困難な課題に向けて財務内容の改善が適切に行われている。

Ⅳ　自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

（１）評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	**A** **計画どおり**	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり

（２）判断理由

①小項目評価の集計結果では、３項目のすべてがⅢ（順調に実施している）であること。
②マスメディア等の様々な媒体を活用し、積極的な広報を展開したこと。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

〇情報公開や情報発信の推進
・県庁記者クラブ等を通じた報道各社への情報提供に加え、新たに県政番組（ラジオ）や公式ＳＮＳの連携等、県の広報媒体を活用した情報発信に取り組んだほか、大学案内の内容を充実させるため、プロポーザル方式による業者選定を行うとともに、内容をリニューアルした。
・大学公式Ｆａｃｅｂｏｏｋだけでなく、学科ごとのＦａｃｅｂｏｏｋでの情報拡散に積極的に取り組んだ。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象 項目数	Ⅰ 実施して いない	Ⅱ 十分に実施で きていない	Ⅲ 順調に実施し ている	Ⅳ 上回って実施 している
自己点検 ・自己評価	1			1	
情報公開 ・情報発信	2			2	
合　計	3			3	

（注）大項目評価は、Ⅲ及びⅣの比率により決定する。
※　小項目評価の集計結果では、全ての項目がⅢ又はⅣの評価の場合、Ａ評価（計画どおり進んでいる）となる。

（３）評価にあたっての意見、指摘等

・中期計画・年度計画・財務諸表等の情報公開を行ったことは評価できる。

Ⅴ　その他業務運営に関する目標

（１）評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり

（２）判断理由

①小項目評価の集計結果では、５項目のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）であること。
②平成 27 年度に開始したキャンパス整備事業について、学修環境と安全の確保に最大限配慮しながら取り組んでおり、ほぼ計画どおりに推移していること。
③学内の危機管理体制を明確化するため「危機管理対策本部設置規程」を整備するとともに、自然災害時等の学生及び教職員の安全の確保、大学運営機能の維持等を盛り込んだ「防災・業務継続計画（ＢＣＰ）」を策定したこと。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

○施設・設備の整備と活用
・工事関係者を交えた工事定例会や、大学関係者で構成する安全管理調整会議等を通じ、事業連携者間で緊密に連携を図りながら、キャンパス整備事業を安全かつ着実に実行した。
○大学の安全管理
・危機管理マニュアル（海外）を作成し、学生の海外渡航における事前指導を強化した。
・法人の業務方法書を改正し、「危機管理本部設置規程」を新たに策定するなど、危機管理体制を明文化したほか、自然災害時等の学生及び教職員の安全の確保、大学運営機能の維持等を盛り込んだ「防災・業務継続計画（ＢＣＰ）」を新たに策定した。
○情報セキュリティの確保
・全教職員を対象にした情報セキュリティに関する研修を実施したほか、新たに情報セキュリティに関する規程を策定し、教職員及び学生の個人情報管理の徹底を図った。
○人権尊重の推進
・全教職員を対象とした人権研修会を開催するとともに、学外で開催された各種研究会等への参加を推進した。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	Ⅰ 実施していない	Ⅱ 十分に実施できていない	Ⅲ 順調に実施している	Ⅳ 上回って実施している
施設・設備の整備と活用	2			2	
安全管理	1				1
情報セキュリティ	1			1	
人権尊重の推進	1			1	
合　計				4	1

（注）大項目評価は、Ⅲ及びⅣの比率により決定する。

※　小項目評価の集計結果では、全ての項目がⅢ又はⅣの評価の場合、Ａ評価（計画どおり進んでいる）となる。

（３）評価にあたっての意見、指摘等

・「防災・業務継続計画（ＢＣＰ）」を作成したことは、評価できる。今後は、ＢＣＰがうまく機能し、効果があるか否かを、災害訓練などを通じて検討することが重要である。

2　全体評価

評価結果と判断理由

評価結果

全体として年度計画を順調に実施している。

判断理由

①大項目のうち「Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標」についてはＳ評価（特筆すべき進行状況）であり、「Ⅱ業務運営の改善及び効率化に関する目標」、「Ⅲ財務内容の改善に関する目標」、「Ⅳ自己点検・評価及び情報の提供に関する目標」及び「Ⅴその他業務運営に関する重要目標」についてはいずれの項目もＡ評価（計画どおり進んでいる）であること。

②「大学の教育研究等の質の向上に関する目標」に関して、学科横断的なカリキュラムである「アートマネジメントプログラム」を開講し、90 名を超える全学科の学生が受講するなど、新たな学修の展開を推進するとともに、就職・進学に対応した進路指導プログラムと進路指導室の面接・相談等により、就職率 97.3%、進学率 98.3%といずれも昨年度を上回る高い水準を維持し、目標値を達成したこと。また、公開講座等の実施や国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭への参画、県内各地域・各種団体との協働など、地域に開かれた大学として地域社会へ貢献する取組を進めていること。

＜委員会からのコメント＞

・年度計画の達成は、順調であると評価できる。
・リスク管理面（ＢＣＰの有効性、サイバーセキュリティの外部評価）の強化を推進することを期待する。
・中期目標及び中期計画に基づき、全般的によく運営されている。
・アートマネジメントプログラムの効果発表を、来年度大いに期待している。
・地域との連動した実践型教育の成果は大いに評価できる。
・施設新設・改築により学修環境の充実による教育資源としての今後の成果が期待できる。

【参考：大項目評価の結果】

Ⅰ 教育研究等 の質の向上	**S 特筆すべき 進行状況**	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
Ⅱ 業務運営の 改善及び 効率化	S 特筆すべき 進行状況	**A 計画どおり**	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
Ⅲ 財務内容の 改善	S 特筆すべき 進行状況	**A 計画どおり**	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
Ⅳ 自己点検 ・評価及び 情報提供	S 特筆すべき 進行状況	**A 計画どおり**	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
Ⅴ その他業務 運営	S 特筆すべき 進行状況	**A 計画どおり**	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり